

新規事業採択時評価結果（平成31年度新規事業箇所）

担当課：国道・技術課
担当課長名：東川 直正

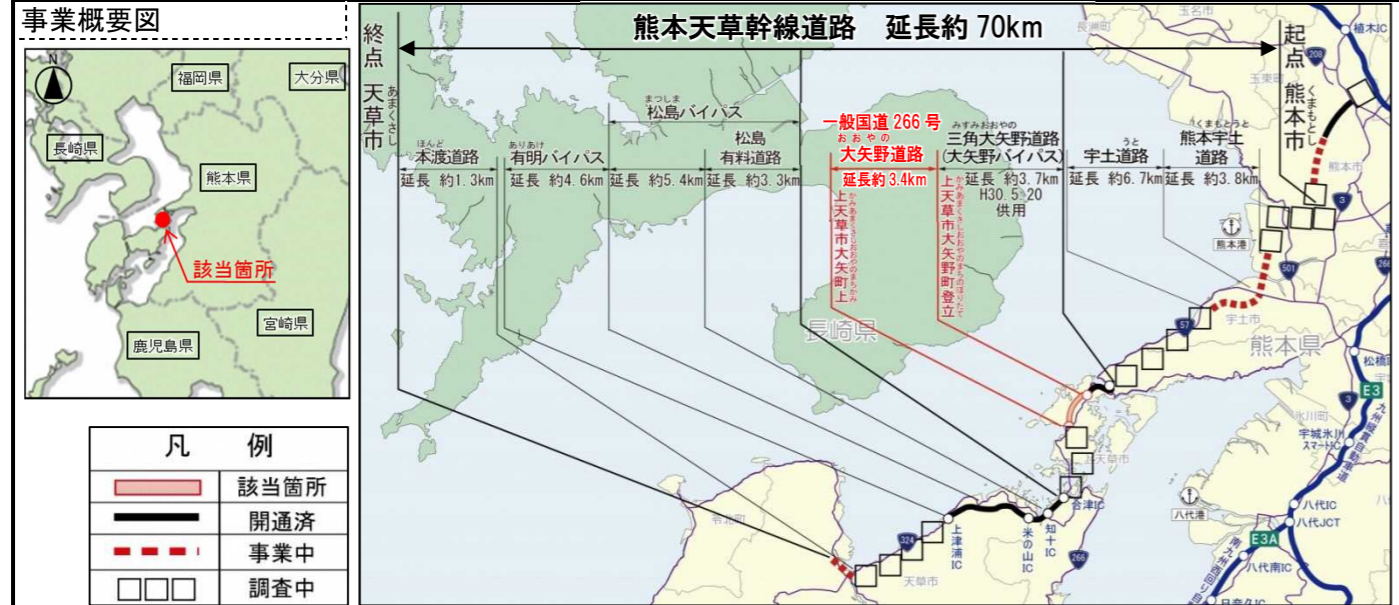
事業の概要

事業名	地域高規格道路 熊本天草幹線道路 一般国道266号 大矢野道路	事業区分	一般国道	事業主体	熊本県
起終点	自：熊本県上天草市大矢野町上 至：熊本県上天草市大矢野町登立	延長	3.4km		

事業概要
熊本天草幹線道路は熊本県熊本市と熊本県天草市間を結ぶ延長70kmの地域高規格道路として計画されており、熊本市と県内主要都市を90分で結ぶ構想(90分構想)の実現に必要な主要幹線道路である。
計画区間は、熊本天草幹線道路の一部として、上述の役割を果たすとともに、大矢野市街地の慢性的な交通渋滞の解消や、通行の安全性向上等を図るため整備するものである。

事業の目的、必要性
・熊本天草幹線道路は、熊本都市圏と天草地域の交流・連携を強化し、天草地域の観光や農林水産業等の産業振興、地域の活性化に大きな役割を果たす。
・このうち、上天草市の人口の約半数が集中する大矢野町を通過する大矢野道路は、地域住民の生活交通と天草地域の豊富な水産資源等を運ぶ物流交通、更に休日を中心とした観光交通の混在による慢性的な渋滞の緩和や、死傷事故件数が多い本区間の安全性向上等に資する道路である。

全体事業費 約170億円 計画交通量 9,700台/日



関係する地方公共団体等の意見
熊本天草間幹線道路整備促進期成会（5市1町、会長：天草市長）及び熊本天草幹線道路整備促進協議会（会長：本渡商工会議所会頭）により、「大矢野道路」区間を含む熊本天草幹線道路の早期整備を要望されている。

学識者等の第三者委員会の意見
—

事業採択の前提条件
・費用対便益：便益が費用を上回っている。
・沿線自治体から早期整備の要望を受けており、円滑な事業執行環境が整っている。
・PI検討委員会からの提言により、ルート帯及び概ねのインターチェンジ位置がとりまとめられている。

事業評価結果

費用対便益	B/C	1.2	総費用：120億円 （事業費：117億円 維持管理費：2.6億円）	総便益：146億円 （走行時間短縮便益：125.0億円 走行費用減少便益：15.7億円 交通事故減少便益：5.6億円）	基準年：平成30年
	感度分析の結果	交通量変動	B/C=1.1 (交通量-10%)	B/C=1.4 (交通量+10%)	
		事業費変動	B/C=1.4 (事業費-10%)	B/C=1.1 (事業費+10%)	
	事業期間変動	B/C=1.3 (事業期間20%)	B/C=1.1 (事業期間20%)		
事業の影響	自動車や歩行者への影響	評価項目	評価	根拠	
		渋滞対策	◎	通過交通の転換により混雑が緩和 ・渋滞損失時間の改善 約19万人時間/年→約3万人時間/年 ・主要渋滞箇所3箇所（大矢野町上交差点ほか2箇所）の渋滞緩和 ・並行する現道の混雑（混雑度1.21）緩和	
		事故対策	○	道路交通混雑に起因する事故を削減する ・死傷事故率 並行する現道(国道266号)区間：約92件/億台km（現況） （国道266号全体の平均：約44件/億台kmの約2.0倍） ・沿道出入りが多く交通混雑が見られる大矢野市街地区間において、通過交通が排除されることで、事故が削減する	
	歩行空間	—	・注目すべき影響はない		
	社会全体への影響	住民生活	○	・第三次救急医療施設「済生会熊本病院」へのアクセス向上	
		地域経済	◎	・年間440万人の観光客が訪れる天草地域へのアクセス向上 ・熊本県内漁獲量の約9割を占める天草地域の水産物の市場拡大	
		災害	○	・災害危険箇所を回避し、緊急輸送道路の機能を強化	
環境		—	・注目すべき影響はない		
地域社会	○	・熊本市～天草市間の交流・連携の強化に寄与			
事業実施環境	○	・PI検討委員会を実施し、ルート及び概ねのインターチェンジ位置を取りまとめた提案書が提出されている。			

採択の理由

費用対便益比が1.2と、便益が費用を上回っており、事業採択の前提条件は確認できる。
また、当該箇所における、生活交通、物流交通、観光交通の混在による慢性的な渋滞の緩和効果は高いものと判断される。
さらに、熊本都市圏と天草地域の交流・連携の強化、天草地域の観光や農林水産業等の産業振興、地域の活性化など、当該事業の必要性、効果は高いものと判断される。
以上により、本事業は平成31年度新規事業箇所として妥当であると考えられる。

※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。